

朗読ボランティアひまわりの会

▼市役所内ポケットスタジオでの録音風景。興味のある方は、ぜひ参加ください。



声のおたよりで多久の情報を届けます！

『朗読ボランティアひまわりの会』は、平成5年に発足。朗読講習会参加者で立ち上げ、声の市報の朗読活動を中心に、子どもたちへの絵本や紙芝居の読み聞かせの『おはなしキャラバン』、施設のお年寄りへの本の朗読を行っています。メンバーは、男性1人女性18人で活動。毎月届ける声の市報は2班に分かれて、1か月交代で90分テープに市報を吹き込みます。原稿を1人10分で読むため、どのように伝えようかを時計を見ながら、多いときには20回ぐらい自宅で練習します。

視覚障害の方へ、よりよい声の市報を届けようと工夫もしています。利用者の声を聞く交流会では、届けているテープについて意見を聞いています。利用者からは「季節ごとの表紙の説明がいい。たくさんのボランティアの方に支えられて有難い」と声の市報が届くのを待ち望む声が聞けました。

問 代表 桑原 幸子 ☎75-6824

●連載6● 郷土資料館で学ぶ多久の歴史

『多久の肥前こまいぬ狢犬展』

肥前狢犬は16世紀末から18世紀中頃までの約160年間、佐賀県を中心に作られていたもので、一般的な唐獅子形の狢犬と比べて全体的に小形で素朴な姿が特徴です。多久市ではこの肥前狢犬が県内で最も多い65体確認されています。肥前狢犬を作っていたのは『石工の里』として知られる牛津町砥川の石工たちでした。当時砥川は多久領に属し、このため多久で多くの肥前狢犬が作られたと思われます。

今回の企画展は、市内各地からお借りした約50体の肥前狢犬を展示しており、肥前狢犬に焦点をあてた展覧会は県内初めてです。この機会に地域の神々を守ってきた愛らしい狢犬たちをぜひご覧ください。



多久市歴史民俗資料館開館30年記念特別企画展

多久の肥前こまいぬ狢犬展

会場 / 多久市郷土資料館 2号・3号展示室

会期 / 10月1日(土)～11月27日(日)

休館日 / 月曜日

(月曜が休日の場合は開館し翌火曜休館)

開館時間 / 9時～16時 入館 / 無料

■問い合わせ 多久市郷土資料館 ☎75-3002

市民文芸

短歌

《麦の芽短歌会 互選》

震災でうちのめされし人々を
思へば吾はいまだ幸せ

迎へ火の煙北へと上りゆく
亡き夫そこより戻りくるらむ

いつせいに洗濯物の干してあり
梅雨の晴れ間を楽しむごとく

「おはよう」と声掛ける吾を
ちらりと見て小学生の通り過ぎたり

虫の音に聴き惚れていし娘ら去れば
夏の終りの足音がする

尾形 節子

浦野 嘉恵

梶原恵美子

本村 則子

本田 静香

俳句

《楷樹句会 互選》

青田にも濃淡のあり風渡る
不二見恵美子

朝取りの茄子の紫光りをり
野田キヌ子

病床に無為の日々すぎ夏の果
森山 袍石

列それし蟻は熱中症かもよ
納富 芦風

余生にもときめきのあり星月夜
今泉 節子

川柳

《多久市川柳会 互選》

難関の門開く時光り射す
武富よう平

隠すから開けてみたい娘のメー
松下 修

孫たちに向いヨチヨチ歩く祖母
大谷 和

一人身で風の吹くまま生きてみる
猪ノ口昭子

ストレスも飛ばしてほしい
西山 残月